

自己努力から社会改善へ

—その「家庭文化」「近所づきあい」の媒介項目は何か—

白 沢 久 一

目 次

- I. はじめに
 - 1. 全体的には自己努力が保守化に
 - 2. 少数の自己努力的「社会改善」型の存在
- II. 自己努力的「社会改善」者への要因度分析
 - 1. 自己努力的「生活困難時の社会的行動」者への要因度分析
 - 2. 自己努力的「福祉財源の国家責任性」への要因度分析
 - 3. 自己努力的「革新政権支持」者への要因度分析
- III. 「家庭と地域」項目上での要因度分析
 - 1. 「家庭管理」「家庭文化」項目中心に
 - 2. 「近所づきあい」「地域団体参加」項目中心に
 - 3. 「家庭文化」「近所づきあい」等の全項目中心に
- IV. おわりに
 - 1. 自己努力的革新支持者への得点化による分析
 - 2. 「労働観等」項目も含めての分析

I. はじめに

——「自己努力から社会改善へ」を求めて——

1. 全体的には自己努力が保守化に

1982年度ゼミより「生活力」形成の力を「社会改善」にむける構造と過程（つまり「道すじ」）が課題となり、実証的研究に努力しはじめた。

この課題は、私の現業時代——特に江戸川区「Aバタヤ」部落の社会福祉主事としての現業活動以来の体験的仮説であった。「自己努力放棄者は社会権主張者になれない」という若干の実例より、「生き方」と「社会

改善」への共通基盤としての「意識性(意欲性)」こそが課題であり、ひいては「自己変革」こそが社会変革につながる「道すじ」であり、「公的扶助処遇」論の課題にひきつけて考えてみれば、生活上の「自己努力こそが社会改善」意識につながり、「生きぬく力」としての「人間の尊厳性」「生存権」思想につながる謎が秘められており、生産過程の能力主義のみでなく、人間の消費過程としての生存そのものへの尊厳意識を基礎とした「健康で文化的な最低限度の生活」(憲法25条)の保障の「生存権」思想につながる道すじを持つのではないかと思われていた。

それは、同時に市民的権利から社会的権利につながるという道すじへの気づきでもあり、⁽¹⁹⁾市民革命の民衆的思想獲得に成功しなかった日本の「草の根」民主主義運動の弱点でもあり、自己努力的でない革新性にすべり込む可能性の多かった構造でもあり、ひいては国家独占体制の中で、マスコミに操作され、真に生活者としての独自の文化のミニマムさえ放棄させられてしまうからである。

古くて新しい課題——自立論を社会性も含めて考える時、今日公扶研運動の研究と実践課題である「社会的自立」論を研究することが緊急に問われていると思えたからである。

橋本浩徳君(1982年度ゼミ員)の「夜間学生(H大二部生、H専門学生)」のアンケート調査からは、「理想的労働者こそ疲労度が高くなって、自己努力と社会意識の逆関係」⁽²⁰⁾であり、食事得点と社会観意識得点とでも正相関になっていないと報告されている。

荃津美津江君(1983年度ゼミ員)のA障害者団体員調査においても、「今回の調査結果で注目すべきは、働いていない者よりも働いている者に、保守志向、現状肯定、満足型が多いということである。しかも、働いている者は『毎月決まった貯蓄をして』おり、『家計簿をつける』など、自己の生活を計画的に運営し、金銭には生活にけじめをつけ、自己のもとに管理する力を備えてるのであるが……」⁽²¹⁾とのべている。

私も、一度は「『自己努力が社会改善意識』にならない結果が散見されており」「『自立が連帯(民主的生活関係)に』つながる道筋じを問いつけて、その結果が出てくるのには時間がかかるとわれ……」⁽²²⁾としたが、しかしこの課題は緊急に問われているので、とりあえずすこしでも努力をつづける必要性を再び考えさせられ、ここ3年位ゼミ員とともに

自己努力から社会改善努力へ

かかわった不十分な調査のデータではあるが若干の解析をこころみたい。

(注1) 拙著「被扶助者の権利と自立の助長」(法社会学会編「社会保障の権利」 有斐閣 1968刊所収)

(注2) 拙著「要保護層と生活力形成」(t) 64頁 (1985年6月 白沢研究室刊)

(注3) 1983年度ゼミ論集「生活力と健康問題の課題」40頁 (白沢研究室刊)

2. 少数の「自己努力的な社会改善」型の存在

そこで分析したいのは、第1に自己努力的生活項目を「疲労度得点」「食事得点」「生活リズム」とし、社会改善意識の項目は、「生活困難時の社会的行動」「福祉財源の国家責任性」「革新政権支持」の項目を、各調査ごとに DATA PATTERN (KHSPSS プログラム) によって、その組合せを算出させた。

表 1-2-1

(単位：%)

	食 事 得 点	困 難 時 行 動	K 小 6 年 組	K 中 3 年 親
11	不 良	社 会 的		7
12	〃	個 人 的		6
21	良 好	社 会 的	44 (55.6)	75 (40.7)
22	〃	個 人 的	35	96 (52.1)
	有効数		79 (100.0)	184 (100.0)
	無効数		11	0

モデルとしての「食事得点良好・生活困難時の社会的行動」型は、K小6年親で55.6%、K中3年生親で40.7%であり、K中3年生親では「食事良好・生活困難時の個人的行動」型が52.1%で社会型よりも多くなっていることに注目する必要がある^(注1)

第2に、自己努力的「福祉財源の国家責任性」型である。自己努力項目を「生活リズム」とし、社会改善項目を「福祉財源の国家責任性」とした時の DATA PATTERN (KHSPSS)による組合せは次の通りである。

表 1-2-2

(単位：%)

	生活リズム	福祉財源	保育園親	共同学童保育所親
11	良 好	やむなし	30	
12	〃	不 拡 大	12	
13	〃	自益者負担	20	1
14	〃	国 家 責 任	337 (57.2)	24 (5.7)
21	不 可	やむなし	16	
22	〃	不 拡 大	13	19
23	〃	自益者負担	10	23
24	〃	国 家 責 任	151 (25.6)	248 (78.7)
有効ケース数			589 (100.0)	315 (100.0)
無効ケース数			41	13

(注 保育園親の生活リズム良好は、起床、就床、朝食のリズムが良好なもののみであり、共同学童保育所親は藤原義隆著「子供の生活リズム」(国民文庫)の項目と得点化である。

ここにも、「生活リズム良好・福祉財源の国家責任性」型は、保育園親で57.2%、共同学童保育所親で5.7%であり、しかも共同学童保育所親では藤原義隆氏提案の生活リズムでは「生活リズム不良」者の国家責任性型が78.7%もあり、我々のモデル型は少数派になっていることがわかる。

第3に、自己努力的「革新政権支持」型である。自己努力項目を「食事得点」とし、社会改善項目を「革新政権支持」項目として、DATA PATERN (KHSPSS)プログラムによって、その組合せを算出させた。

「食事得点良好・革新政権支持」者は、C市障害児親調査で、13.4%、夜間学生調査(H大2部、H保専学生)で^(注2)15.9%のみであり、^(注3)食事得点良好であってもDK者・保守政権支持者がいずれも多数派となっている。

以上の組合せの分析より、全体的には社会改善意識を持つものの中でも、自己努力型は必ずしも多数派をつくっているわけではなく、多くが少数派である。しかし、その中において存在をつづける自己努力的「社会改善」者があることに注目せざるをえない。それは今は少数派であっても、未来の多数派の可能性を秘めているからである。^(注4)

自己努力から社会改善努力へ

表 1-2-3

(単位：%)

	食 事 得 点	政 権 支 持	C市障害児親	夜 学 生
11	不 可	保 守		3
12	〃	中 道		3
13	〃	革 新		4
14	〃	D K	5	7
21	良 好	保 守	17 (25.3)	22 (23.4)
22	〃	中 道		9
23	〃	革 新	9 (13.4)	15 (15.9)
24	〃	D K	36 (53.7)	31 (32.9)
有効ケース			67 (100.0)	94 (100.0)
無効ケース				6

(注1) 疲労度も含めての PATA PATTERN (KHSPSS)による組合せは、「疲労度良好、食事得点良好、生活難時の社会的行動」はよりすくなくなり、中3年生親は3.2%のみであり、それ故に自己努力の項目を食事得点みにおいて解析しようとした理由である。

(単位：%)

	自 己 努 力 項 目		社 会 改 善 項 目	K小6年親	K中3年親
	疲 労 度	食 事 得 点	困 難 時 行 動		
111	可	不 良	社 会 的		2
112	可	〃	個 人 的		2
121	可	良 好	社 会 的	31 (39.2)	6(3.2)
122	可	〃	個 人 的		19
211	不 良	不 良	社 会 的	22	5
212	〃	〃	個 人 的		4
221	〃	良 好	社 会 的	13	69
222	〃	〃	個 人 的	13	77
有効ケース数				79 (100.0)	184(100.0)
無効ケース数				〃	

(注 2) この調査は、'82年度卒論の橋本浩徳君のデータである。

(注 3) この調査は'82年度卒論の浅野聡美君データであり、「障害の子育てに関するアンケートについての一考察」(82年度ゼミ論「生活技術形成の課題」白沢研究室刊 1983. 3 所収) 参照

(注 4) なお、困難時行動と国家責任・政権支持・政党支持の関連は次のとおりである。

夜間学生

	困難時行動(2)	—	政 権(4)
困難時行動			
政権支持	0. 2194		
政党支持	0. 2850		※※0. 5864

障害児・保育園児親

	困難時行動(2)	国家責任(2)	政 権(4)
困難時行動			
国家責任	0. 1334		
政 権	(0.00)0. 4830	0. 1719	

(注) $X^2(P) ※ … P < 0.01$

※ … $0.05 > P < 0.01$

()内は条件があわないがそのP値

他の数字はファイ係数又はクラマー係数

[]内の数字は回答項目数

II. 自己努力的「社会改善」者への要因度分析

1. 自己努力的「生活困難時の社会的行動」者への要因度分析

K小6年生親の調査 その「食事得点良好・生活困難時の社会的行動」者への要因度を、林数量化理論II類のプログラム(KHSPSS)によって算出させた。第1に、その属性の特徴は、8位の「父の年令」では「~39歳」に高かった。第2に、子育てに関しては、促進項目として、1位の「性教育」が家で行われ「いる」に高く、7位の「起床仕方」では「ひとりでおきる」に高い。しかし、逆に改善項目は、2位の「食事のテレビ」

表2-1-1 K小6年生親の「食事得点良好・生活困難時の社会的行動」者への要因項目別ウエイト数量分布表
 林数量化Ⅱ類 (KHS:PSS) 相関比=0.6264

順位	質問	答 (数量)	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	お宅では性教育が行われていますか						いいえ						はい		0.4087
2	食事中のテレビ						ときに						いつも		0.3529
3	毎日献立を立てていますか			予めたてる						店で					0.3220
4	病気や結婚のための貯蓄			いない						いる					0.3043
5	貧困の最大原因						努力不足			社会的			DK		0.2857
6	子供の掃除の協力						している						していない		0.2472
7	起床の仕方						親や時計で						ひとりでおきる		0.2344
8	父の年齢						40才-						~39才		0.2339
9	仕事が終わった時どのようにするか						何もしない						ほめる		0.2315
10	歯みがき									毎朝的			朝だけ		0.2160
11	お子さんに特技、趣味がありますか						いいえ			はい					0.2098
12	近所づきあい特点									低い				高い	1.4
13	外出の時、子供や留守をたのむ	-1.9	していない							している					0.2011
14	喫煙(親)						無						有		0.1929
15	お子さんに小遣いを与えているか						定期定額						必要なとき		0.1870
16	昨年中の貯蓄						していない			している					0.1868
17	子供との対話									多くしたい			質問に答える程度		0.1747
18	男の子の進学希望先						短大以上			無記入			高校以下		0.1713
19	家計簿はつけていますか						つけたり、つけなかったり						つけている		0.1708
20	不幸があった時手伝う						していない						している		0.1695

答1. 食事良好、困難時の社会的行動 件数 44
 2. その他 46

有効ケース数 90 無効ケース数 0 カテゴリー数 123

自己努力から社会改善努力へ

表 2-1-2 K中学生親の「食事良好・生活困難時の社会的行動」者への要因項目別ウエイト数量分布表
林数量化Ⅱ類 (KHSPSS) 相関比=0.4467

順位	質 問	答 (数値)	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	貧困の最大原因				DK				個人	社会					0.3462
2	学校内でおどかされたりなぐられたりしたか		ある						ない						0.2437
3	毎日献立を立てていますか							店で					予め		0.2351
4	体罰をうけたことがありますか							ない			ある				0.2334
5	衣類の購入基準は？				流行				必要						0.1733
6	授業はよくわかりますか							わからない		わかる					0.1587
7	自分達で作った遊びがありますか							ある			ない				0.1556
8	男の子の進学希望校							短大以上	未記入		高校				0.1490
9	みだしなみについて							あまり気にしない		気にする					0.1444
10	常時使う部屋の掃除は？							毎日			汚れた時				0.1289
11	万引をみたらどうしますか							みないふり		やめよという					0.1204
12	家族形態							拡大		核・欠損					0.1181
13	母の学歴							高校		中学					0.1178
14	近所づきあい得点							低い		高い					0.1149
15	問題対処への先生方の指導は？							とりくんでいる		形式的					0.1088
16	生活費のきりつめ方(光熱費)							きりつめ	未記入	切りつめられない					0.1084
17	子供の食事のあとかたづけ							している		いない					0.1066
18	料理内容の基準は？							栄養中心		好きなもの					0.0998
19	飲酒の有無							無		有					0.0967
20	住宅							借家		自家					0.0955

答1. 食事良好, 生活困難時の社会的行動 件数 75
2. その他 〃 109

有効ケース数 184 無効ケース数 0 カテゴリー数 109

自己努力から社会改善努力へ

が「いつも」、6位の「子供の掃除の協力」に「していない」、10位の「歯みがき」では「朝だけ」に高いウエイトの数量となっており、生理的生活リズムの項目では改善点が多い。第3に、家庭管理項目では、3位の「毎日献立を立てているか」では「店で」が高いが、しかし、19位の「家計簿」では「つけている」に高なっていた。第4に、「近所づきあい」では、12位の「近所づきあい得点」が「高い」にウエイ数量が高くなっている。第5に、社会意識項目では、5位の「貧困の最大原因」では「わからない(DK)」に高くなり、「社会的」は中位になっている。

以上の内容から、子育てに関する項目の順位が高位に多いがその内容の多くが我々の視点からは克服すべき内容となっている。

K中学3年生親調査 その「食事得点良好・生活困難時の社会的行動」者への要因度は、表2-1-2の通りである。第1に、そ属性の特徴では、「核・欠損」家族に高く、第13位の母の学歴では「中学」に高くなっている。第2に、子育てであるが、17位の「子供の食事のあとかたづけ」が「していない」に高く改善項目であるが、他の学校生活項目では6位の「授業はよくわかりますか」では「わかる」に高く、11位の「万引をみたらどうしますか」では「やめようという」に高くなっている。第3に、家庭管理項目では、改善項目として、10位の「掃除」が「その都度」に高く、18位の「料理内容の基準」が「好きなもの」中心に高くなっている。しかし、3位の「毎日の献立」では「予めたてる」に、5位の「衣類の購入基準」では「必要性で」に、9位の「みだしなみ」では「気にする」に高い。第4に、社会意識では、1位の「貧困の最大原因」が「社会」に高くなっている。以上このことから、K中学3年生親調査では、K小6年親調査よりも社会意識の社会性と家庭管理項目が多く、子供も家庭協力以外は、「授業がわかる」等の好ましい内容が媒介項目となっている。つまり、我々のモデルの視点に近い内容である。

2. 自己努力的「福祉財源の国家責任性」者への要因度分析

保育園親調査 その「生活リズム良好・福祉財源の国家責任性」者への要因度を、林数量化理論II類のプログラム(KHSPSS)によって、算出させた。第1に、その属性の特徴は、5位の年令で「40歳～」に高

表3-2-1 保育園親調査の「生活リズム良好・福祉財源の国家責任性」への要因項目別ウエイト数量分布表

林数量化Ⅱ類 (KHSPSS)

相関比=0.2793

順位	質問	答(数量)											偏相関	
		-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	
1	お子さんは一日平均どの位テレビをみますか					3時間以上		2時間	無	1時間				0.2156
2	朝食にお子さんの食欲はありますか					あまりない		普通	ある					0.1969
3	あなたの保育料は高いですか					無 安い		今のまま	高い					0.1755
4	子供の介護の責任					無記入		親					行政等	0.1326
5	年齢					18~29才	35~39才	30~34才	40才~					0.1317
6	保育料は全額公費で負担してもらいたい					いいえ		時々	はい	無記入				0.1306
7	子供の養育費の負担の責任	無記入						両親	両方	社会				0.1202
8	家庭文化得点					低い	中位		高い					0.1161
9	子供のしつけや育児に自信がない					いいえ		時々	はい					0.1098
10	仕事をつづける経済的理由					無	備え	なし	生活	その他	豊かに			0.1066
11	精神的					みんなが働く故	勉強	収入	生きがい	楽しい	あたりまえ	無		0.1015
12	近隣との交流がうまくいかない							時々	はい	いいえ				0.0999
13	子育てで困った時、主として誰れに相談するか					無記入	親	兄弟	兄相	友人	保育園			0.0977
14	貧困問題への対応					家族で		本人	無	公的に				0.0935
15	住居							持家	賃借	公住	借家	給与住宅		0.0929
16	年収							270~480万円	~265万	500万~				0.0837
17	福祉は公民共同で							DK	思わない	思う				0.0745
18	職業							教員	会社員	パート	その他	公務員	自営	0.1131
19	夕食にお子さんの食欲はありますか								ある	ない	普通			0.0666
20	お子さんは日曜日いつもどこで遊んでいますか							友人の家	家のそば	家の中	空地	家の庭		0.0640

答1. 生活リズム良好, 国家責任 件数 339

2. その他

件数 293

有効ケース数 630 無効ケース 0 カテゴリー数 121

表3-2-2 共同学童保育所親の「生活リズム良好・福祉財源の国家責任性」への要因項目別ウエイト数量分布表
林数量化Ⅱ類 (KHSPSS) 相関比=0.2611

順位	質問	答 (数値)	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	住居					給与住宅			持家	公営住宅					0.1847
2	家庭文化得点					低い		中位							0.1780
3	自分が病気の時、世話をしてくれる人が欲しい					はい			いいえ	時々					0.1778
4	世帯類型					核			三世帯		欠損				0.1768
5	子供のしつけの責任					家庭			社会						0.1397
6	子供の学習にボランティア・行政の力を					時々		無	はい	いいえ					0.1389
7	学歴					大学			高校	短大	中学				0.1332
8	父母の会参加					出る			名前だけ	入っていない	無				0.1216
9	働きつづける精神的理由					楽しい	収入	生きがい	勉強	みんなが働くから					0.1179
10	保育所の終る時間に間に合わない					無		いいえ	はい	時々					0.1154
11	子供の介護の責任					行政			家庭						0.1137
12	子供館や遊び場をふやしてほしい					ある程度		はい		いいえ					0.1099
13	町内会、自治会参加					たまに入っていない			出ている						0.1043
14	仕事を続ける経済上の理由					理由なし	生活		豊かに	備え					0.1013
15	行政と親達の役割分担					財は行・運は親	財・運を行政		財・運を親と指導員で						0.1012
16	年齢					30～39才		～29才		40才～					0.1009
17	子供と話をしたりする時間がないので何とかしたい					時々		はい		いいえ					0.0961
18	保育料は負担になりますか					普通			高い						0.0958
19	職業					無	自営	公務員	パート	会社員		教員			0.0944
20	文化サークル参加					名前だけ			入っていない		出ている				0.0868

答1. 生活リズム良好, 国家責任 件数 24
2. その他 〃 304

有効ケース 328 無効ケース 0 カテゴリー数 98

自己努力から社会改善努力へ

く、15位の「住宅」では「給与住宅」に高く、16位の「年収」では「500万円～」に高く、18位「職業」では「自営」「公務員」に高いウエイト数量となっている。第2に、子育て項目では、1位の「TVの平均時間」では「1時間」に高く、2位の「朝食の食欲」では「ある」に高くなっているが、親としては「しつげに自信がない」では「はい」に高くなっている。第3に、8位の「家庭文化」得点では「高い」が高くなっている。第4に、社会福祉観では、3位の「保育料」では「高い」に高く、4位の「子供の介護責任」では「行政等」に高くなり、7位の「子供の養育費負担責任」では、「社会」「両方」に高いウエイト数量となり、14位の「貧困問題への対応」で「公的」に、高くなっている。このことは、自己努力的「国家責任」性への媒介項目は、子育て「良好」、福祉観の「社会性」が特徴となっている。

共同学童保育親の調査 「生活リズム良好・福祉財源の国家責任性」への要因度分析(林数量化Ⅱ類)では、第1に、その属性の特徴では、1位が「住居」で「借家」に高く、4位の「世帯類型」で「欠損」に高く、7位の学歴では「中学」「短大」に高く、16位の「年令」では「40歳～」に高くなっている。第2に、2位の「家庭文化」得点では「高い」にウエイト数量が高くなっている。第3に「地域関係」項目では、8位の「父母の会参加」では「無記入」「入っていない」に高く、逆に13位の「町内会参加」では「出ている」に高くなっている。第4に、「社会福祉」観では5位の「しつげの責任」が「社会」に高く、11位の「介護の責任」は「家庭」となり、1位の「行政と親達の役割分担」では「財政も運営も親と指導員で」に高くなっている。全体には自己努力的国家責任への媒介項目は属性の低位性、社会福祉観の社会性、家庭文化得点の高位性となっている。属性の低位性がこの調査の特徴であるが、保育園、共同保育所を通じて「家庭文化」得点の高位性が共通していることは注目すべきものと思われる。

3. 自己努力的「革新政権支持」者への要因度分析

C市障害児調査 その「食事得点良好・革新政権支持」者への要因度を、林数量化理論Ⅱ類のプログラム(KHSPSS)によって、算出した。第1に、その属性の特徴では、1位の「親の年収」では最も低所得の「～299

表 2-3-1 C市障害児調査の「食事良好，革新政権支持」への要因項目別ウエイト数量分布表

相関比=0.9590

順位	質 問	答 (数量)	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関				
1	親の年収	300～399万円							400万～				～229万		0.8959				
2	行政改革	-2.5 豊かに												犠牲	DK	0.8951			
3	今後の社会について	このまま												変って欲しい		0.8775			
4	妊娠中夫婦仲は良かったか													普通 とてもよかった		0.8760			
5	訓練効果													良くなった		0.8671			
6	男の子の進学希望先													高校	大学	短大	0.8485		
7	子供の将来のために何を実践すべきか	貯金												実践 手だて		課題解決	0.8440		
8	親として子供の将来のために何をすべきか	思う														強く思う	0.8440		
9	生活上困難な時の行動	役所に														署名 自分の家で	0.8381		
10	親の会に入った契機は何ですか	保健婦から														他の親から 自分から	0.8376		
11	みだしなみについて															気にしている	あまり気にしない	0.8205	
12	治療方法についてご存知ですか															だいたい知っている DK	知っている	0.8076	
13	部屋の掃除															毎日	その他	0.8005	
14	今住んでいる家の広さは子育てにとってどうか	狭い														普通	広い	0.7841	
15	住宅															借家 社宅・公住	自宅	0.7714	
16	衣類の購入	-1.8 流行															必要なもの	0.7705	
17	家事への家族の協力	家族で															その他	0.7438	
18	現在障害はなわると思えますか																治らない 治る DK	0.7353	
19	父親の協力																協力的 普通	協力的でない	0.7288
20	子供の将来に何か期待を持っていますか																健康 勉強 自立・就労	0.7196	

有効ケース数 67 無効ケース数 0 カテゴリー数 98 答1. 食事良好，革新政権支持 件数 9
2. その他 〃 58

自己努力から社会改善努力へ

表 2-3-2 夜間大学生調査の「食事良好、革新政権支持」への要因項目別ウエイト数量分布表

相関比=0.6302

順位	質問	答 (数値)	-1.0	-0.8	-0.6	-0.4	-0.2	0	+0.2	+0.4	+0.6	+0.8	+1.0	+1.2	偏相関
1	男女	-1.4	男										女		0.4809
2	みだしなみについて						気にする							気にしない	0.4264
3	職業					サービス	事務						日雇・工員	無	0.3607
4	結婚の目的—生きがい					記入あり							無記入		0.3492
5	政党支持の理由						無記入	政策						まわりの人から	0.3490
6	食事の献立							その他						予め	0.3420
7	結婚の条件—性格					記入あり							無記入		0.3356
8	公害や物価高					はい							無記入		0.3293
9	新聞をよむ面					政治経済	公告	スポーツ						社会	0.3201
10	住宅					借間	自宅						借家		0.3135
11	起床時間	-1.4	きまってない										きまっている		0.2808
12	問題解決の方法												個人的に		0.2735
13	社会について							変化					その他	運動化	0.2675
14	差別の残りがあ							無記入					はい		0.2669
15	結婚の目的—生理的充足		記入あり										無記入		0.2591
16	女性の就職					家庭							出産まで	働けるだけ働く	0.2465
17	結婚の条件—経済力					記入あり							無記入		0.2300
18	労働の意味							賃金						生きがい	0.2254
19	行政改革の認知							内容不明						だいたい知っている	0.2189
20	毎日新聞を読む時間					30分～							～15分	15分～30分	0.2143

有効ケース数 100 無効ケース数 0 カテゴリー数 116

答1. 食事良好、革新政権 件数 15

2. その他 〃 85

万円」に高く、15位の「住宅」では「自宅」に高くなっている。第2に、「子育て」をめぐる状況では、4位の「妊娠中夫婦仲は良かったか」では「良かった」に高く、5位の「訓練効果」では「なし」に高く、6位の「男の子の進学希望先」には「短大」に高く、10位の「親の会に入った契機は何ですか」では「自分ら」に高く、ほぼ積極的な姿勢が多くみられる。第3に、家庭に関する項目では11位の「みだしなみ」については「あまり気にしない」に高く、1位の「部屋の掃除」では毎日以外の「その他」となっており、その内容は好まいものではない。つまり家事は省略しても「子育て」に力をそそいでいるという内容であろうか。第4に、「社会意識」であるが、7位の「行政改革」には「わからない(DK)」に高く、3位の「今後の社会」については「変化」を求め、9位の「生活困難時の行動」では「自分の家で」として、必ずしも「社会的行動」になってはいない。

夜間学生調査(H大II部・H大保専学生) その「食事良好・革新政権支持」者への要因度分析を、林数量化理論II類によって、算出させた。第1に、その属性の特徴は、1位の性別では「女」に高く、3位の「職業」では「無記入、無職」「日雇・工員」に高く、10位の「住宅」では「借家」に高い。第2に、家庭管理項目では、「食事献立」では「決まっている」に高く、16位の「女性の就職」では「働けるだけ働く」に高くなっている。「結婚の目的」では、4位の「生きがい」の「記入」がマイナス、15位の「生理的充足」の「記入」にもマイナスとなっている。結婚の条件として、7位の「性格」の「記入」にもマイナス、17位の「経済力」の「記入」にもマイナスとなっている。第4に労働意識であるが、18位の「労働の意味」で「生きがい」に高くなっている。第5に、「社会観」では、12位の「生活困難時の行動」では「運動化」に高くなっている。14位では「差別の残り」に「はい」としているが、1位の「社会変化」では「変化」がマイナスとなっている。第6に、政治行動では、5位の「政党支持の理由」が「まわりの人から」に高くなっていることは注目すべきであるが、しかし9位の「新聞をよむ面」では「社会」が高くなっていることは、その基礎に「社会的関心の強さを持っているものと思われる。

以上の分析から、「生活条件の低位性」「社会(貧困)観」を基礎に、「子育て」「家庭文化」項目の内容充実努力が、自己努力的社会的志向を

育てているものと思われる。

III. 「家庭と地域」項目中心の要因度分析

1. 「家庭管理」「家庭文化」項目中心に

家庭管理項目 家庭管理項目中心に林数量化理論II類のプログラム(KHSPSS)でSTEP1とし、その他をSTEP2として、算出させた内容が表3-1の内容である。STEP1ではいずれも第5位までに共通の内容をみい出すことは出来なかったが、その内容においては促進すべき内容が多いという特徴をもっている。

家庭文化項目 調査対象がいずれも共稼ぎ家庭であり、項目の中心が家庭の結束力をきいているが、「朝食は全員で」等の時間をとらない精神的項目が促進内容となっているが、「掃除」「家族の家事協力」「家計簿」等の時間をとるものは改善項目となっている。なお、障害児・保育所親調査^(注1)のみにあった質問項目の「離婚」観では「愛人が出来れば別れる」に高くなっており、考えさせられる内容であった^(注2)。

(注1) 1984年度の中沢雄一、松井祐子、難波祐子君の卒論によるデータであり、その若干の解析については、1984年度ゼミ論「生活力形成と家庭管理の課題」90～119頁参照

(注2) なお、拙著「要保護層と生活力形成」(下)16頁 1985年6月 研究室刊 参照

表 3-1-1 「家庭管理」「家庭文化」項目中心に

		〔家庭文化項目〕										相関比	%
		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	0位		
K小学6年生親 (療労度良好 食事良好 困難時の社会性) 31/90	STEP1	1. みだし なみ (気にする)	2. インス タント 利用 (利用して いない)	3. 衣類購 入 (必要なもの)	4. 貯蓄 (している)	5. テレビ の見る 頻度 (いつも)						0.0996	13.9
	STEP2	1. 子の掃 除協力 (していない)	2. しつけ について (十分)	3. 光熱費 (きりつめ られない)	4. 子の好 ききらい (ない)	5. みだし なみ (気にする)	6. 住宅 (自家)	7. 父の職 業 (専問・管理)	8. 性教育 (家族以外)	9. 登校ま で (1時間 以内)	10. 毎朝排 便 (必要)	0.7153	100
		11. 小遣い (必要な時)	12. 起床の 仕方 (ひとり)	13. 食事中 のTV (いつも)	14. 父の学 歴 (高校以上)	15. しつけ の相談 (よくする)	16. 母の職 業 (主婦)	17. 親の喫 煙 (あり)	18. 貧困原 因 (わからない)	19. 貯蓄 (病気が ある)	20. 衣類購 入 (必要なもの)		
K中学3年生親 と子 (療労度良好 食事得点良好 困難時の社会性) 6/184	STEP1	1. ローン 利用 (20%~)	2. 毎日の 献立 (予めて てる)	3. 料理内 容 (栄養中心)	4. TVの 見方 (時間ぎめ)	5. インス タント 利用 (利用して いる)				9. 男の子		0.1527	42.2
	STEP2	1. ローン 利用 (20%~)	2. 家族形 態 (核・欠損)	3. インス タント 利用 (利用して いる)	4. 父の年令 (40才~)	5. 子供の 下着 (毎日とりか えさせる)	6. 光熱費 (切りつめ られない)	7. 家計簿 (つけたり つけなかつ たり)	8. シンナー について (許される)	9. 男の子 の進学 先 (未記入)	10. 母の年 令 (~39才)	0.3616	100
		11. 住宅 (自家)	12. 子供と の対話 (多くしたい)	13. 子供の 掃除 (協力して いない)	14. タバコ (20本以下)	15. 学内で のおどし (ない)	16. 毎日の 献立 (予めてる)	17. 方引を みたら (やめよ という)	18. 土地へ の貯蓄 (している)	19. 父の学 歴 (中学)	20. 子供の 食事の あとをか たずけて (協力して いる)		

自己努力から社会改善努力へ

表 3-1-2

		〔家 庭 管 理 項 目〕										相 関 比	%
		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位		
保 育 園 親 (生活リズム良好) 国家責任性 337/630	STEP1	1. 家具の修理 (はい)	2. 掃除は毎日 (時々)	3. 朝の「おはよう」 (はい)	4. 夫の家事手伝 (時々)	5. 日曜日の家族一掃 (いつも)						0.0627	21.1
	STEP2	1. 子供のTV時間 (1時間)	2. 保育料は? (高い)	3. 朝の食欲 (ある)	4. 職業 (自営)	5. 介護責任 (行政等)	6. 学歴 (大学)	7. 養育費責任 (親と社会)	8. 保育料は公費で (無・はい)	9. 近隣交流まずし (いいえ)	10. しつけに自信なし (はい)	0.2961	100
共同学童保育所親 (生活リズム良好) 国家責任性 24/328	STEP1	1. 毎月の貯蓄 (いつも)	2. 夫の家事手伝 (いいえ)	3. 家族でTV内容 (よく観合う)	4. 子供の家事手伝 (はい)	5. 朝食は全員で (はい)						0.0875	28.6
	STEP2	1. 住居 (借家)	2. 毎月の貯蓄 (いつも)	3. 世帯類型 (欠損)	4. 病氣等 (世話を時々)	5. 朝食は全員で (はい)	6. 学習にボランティアを (いいえ)	7. 父母の会 (無・入っていない)	8. 学歴 (中学)	9. 子供のしつけ (社会・両方)	10. 町内会参加 (出ている)	0.3051	100
障害児・保育所親 (疲労度良好) 食事良好 国家責任性 15/180	STEP1	1. 家族に家計を (時々)	2. 家族にも家事を (いいえ)	3. 朝食は全員で (はい)	4. 掃除は毎日 (いいえ)	5. 家計簿 (いいえ)						0.1369	41.0
	STEP2	1. 妻の職業 (公務員)	2. 家族に家事を (いいえ)	3. 職業 (自営業)	4. 妻の学歴 (短大以上)	5. 朝食は全員で (はい)	6. 家族に家計を (時々)	7. 住宅 (公営住宅)	8. 家事と子育て (共稼・趣味も)	9. 離婚 (愛人出られるばわかれる)	20. 毎月の貯蓄 (時々)	0.3336	100
		11. 仕事の経済的理由 (豊かに)	12. 仕事の精神的理由 (無・あたまえ)	13. 掃除は毎日 (時々)	14. 子育て相談先 (保育園)	15. 貧困問題 (公的援助)	16. 住居 (給与住宅)	17. 家具の修理 (はい)	18. 日曜日は家族一掃 (いつも)	19. 家族形態 (核)	20. 朝の「おはよう」 (はい)		
		11. 遊ぶ時間が少ない(いいえ)	12. 運営について (財形も運営も親で)	13. 子める精神的理由 (苦が劇くから)	14. 子供館をふやし (いいえ)	15. 年令 (40才～)	16. 保育料は? (高い)	17. 日曜は家族で (すごさない)	18. 介護の責任 (家庭)	19. 掃除は毎日 (いいえ)	20. 終る時間に間にあわない (時々)		

注 ()内はウエイト数値が最高のカテゴリー名

2. 「近所づきあい」「地域団体」項目中心に

近所づきあい項目 農村部でのK小6年親とK中3年親の調査では「留守番」「おすそわけ」「買物」「子供が遊びに行く」等の便益的内容が高い。しかし、都市部の保育園と共同学童保育所親の調査では、保育所親では「あいさつ」「世間話」等のやや挨拶的内容のものが好ましいもの内容となっているが、共同学童保育所親の自己努力的革新志向型の近所づきあいには「あいさつ」などはせずに、「留守番」「不幸時の手伝」等の便益的内容が高く、かろうじて生活しているものと思われる。

地域団体の参加 参加しているものの項目を中心に見ると、保育園親のところでは、「父母の会」「PTA」に参加しているが、「町内会」は5位までに登場していないし、「スポーツサークル」等にも不参加である。このことは、最少限「父母の会」「PTA」だけは参加して、地域関係を保ちつつ、自己努力的社会性を志向しているものと思われる。

共同学童保育所親では、「文化サークル」が2位に登場し、5位に「町内会」が登場しており、やや子育てに余裕を持って来たのか、この期の自己努力的社会派の「地域団体」参加は少数のボランティアサークル参加を除けば「文化サークル」が媒介項目となっている。

表3-2-1 「近所づきあい」「地域団体」項目中心に

		「近所づきあい」中心に										相関比	%	
		1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位			
K小学生6年 (疲労度良好 食事得点良好 困難時の社会性) 31/90	STEP1	1. 世間話 (しない)	2. 留守番 (よくして いる)	3. おすそ わけ (よくして いる)	4. あいさ つ (しない)	5. 子供の 遊び (時々)							0.1400	16.4
	STEP2	1. しつけ (十分され ている)	2. 子供の 遊び (しない)	3. 不幸時 の手伝 (時々)	4. 好き嫌 い (ない)	5. 1日の テレビ (～3時間)	6. 備みが き (朝だけ)	7. おすそ わけ (している)	8. 子の掃 除協力 (いない)	9. 父の年 令 (～39才)	10. あいさ つ (時々)		0.8491	
K中学生3年 (疲労度良好 食事得点良好 困難時の社会性) 6/184	STEP1	1. 世間話 (時々)	2. あいさ つ (しない)	3. 買物 (している)	4. 遊びに 行く (よくして いる)	5. 留守番 (している)							0.1741	53.7
	STEP2	1. あいさ つ (しない)	2. 子供の 遊び (よくして いる)	3. 世間話 (時々)	4. しつけ につい (十分でな い)	5. 買物 (よくして いる)	6. 下着の とりかえ (毎日させ ている)	7. 家族形 態 (核・欠損)	8. 留守番 (よくして いる)	9. タバコ (20本以下)	10. TVの みせ方 (時間ぎめ)		0.4324	
保育園親 (生活リズム良好 福祉的[国家責任] 337/680)	STEP1	1. 買物 (しない)	2. あいさ つ (よくして いる)	3. 世間話 (よくして いる)	4. 不幸時 手伝 (時々)	5. 留守番 (時々)							0.0494	16.3
	STEP2	1. テレビ をみる 時間 (1時間)	2. 朝食の 食欲 (ある)	3. 保育料? (高い)	4. 年令 (40才～)	5. 介護の 責任 (行政等)	6. 養育費 の責任 (両方)	7. 保育料 の公費 で (無記入)	8. 職業 (自営)	9. 不幸時 手伝 (時々)	10. 世間話 (よくして いる)		0.3014	
	STEP2	11. 仕事を つづけ る経済 的理由 (豊かに)	12. 家庭文 化得点 (高い)	13. 子供の しつけ の自信 (高い)	14. 仕事を つづけ る精神 的理由 (無)	15. 買物 (殆んどし ない)	16. 買物問題 (公的援助)	17. 近隣と の交流 (いいえ)	18. 子供の 相談先 (保育園)	19. おすそ わけ (殆んどし ない)	20. 住居 (結乎住宅)			

表 3-2-2

		「近所づきあい」項目中心に										相関比	%	
		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位			
共同学童保育所親 (生活リズム良好) 福祉の国家責任 24/328	STEP1	1. 留守番 (よくして いる)	2. あいさ つ (しない)	3. 不幸時 の手伝 (よくして いる)	4. おすお わけ (しない)	5. 貸しかり (しない)							0.2929	14.3
	STEP2	1. 住居 (借家)	2. 世帯類 型 (欠損)	3. 家庭文 化得点 (高い)	4. 病気の 時に子 供の世 話を (時々)	5. しつけ の責任 (社会等)	6. 学習に ボラン ティアを (いいえ)	7. おすお わけ (しない・ している)	8. 留守番 (よくして いる)	9. 運営方 法 (財政も運 営も親)	10. 勤務上 の精神 的理由 (みんなが 働くので)		0.2929	100.0
障害児・保育園児 調査 (疲労度良好) (食事得点良好) (革新政権支持) 15/180	STEP1	1. 不幸時 手伝 (よくして いる)	2. 立話し に (殆んどし ない)	3. マイカー に乗せる (時々)	4. 買物 (よくし ている)	5. おすお わけ (よくして いる)							0.1421	34.9
	STEP2	1. 妻の職 業 (公務員)	2. マイカー に乗せる (時々)	3. 不幸時 手伝 (よくして いる)	4. 立話し に (殆んどし ない)	5. 主の職 業 (自営)	6. おすお わけ (時々)	7. 妻の学 歴 (短大・学 大)	8. 主の学 歴 (中学・無)	9. 家事・ 子育て (趣味、共 働き)	10. 子供が 遊びに (よくして いる)		0.4071	100.0
		11. 町内会 (出る)	12. 終る時 間にあわ ない (時々)	13. 学歴 (中学)	14. 父母の 会 (はいつて いない)	15. 子供館 をふやし (いいえ)	16. 保育料? (高い)	17. 年齢 (40才ー)	18. 介護の 責任 (家庭)	19. 職業 (教員)	20. かしかり (しない)			
		11. かしかり (殆んどし ない)	12. 買物 (よくして いる)	13. 家庭文 化得点 (良好)	14. 住宅 (公営住宅)	15. 家族類 型 (欠損)	16. 離婚歴 (業がなく なれば別 れる)	17. 留守番 (よくして いる)	18. 障害 (なし)	19. 子の生 活記録 (毎日)	20. 生活程 度 (中・ 中の下)			

自己努力から社会改善努力へ

表 3-2-3

		(1)「地域団体」参加項目中心に										相関比	%	
		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位			
保育園親 (生活リズム良好) 福祉の家庭責任 337/630	STEP1	1. 父母の会 (参加)	2. PTA (参加)	3. ボランティア サークル (名前だけ)6人	4. その他 (参加)	5. スポーツ サークル (入っていない)							0.0404	13.8
	STEP2	1. 1日の TV時間 (1時間)	2. 朝の食 欲 (ある)	3. 保育料? (高い)	4. 介護の 責任 (行政等)	5. 年令 (40才～)	6. 保育料 は公費で (無・はい)	7. 家庭文 化得点 (高い)	8. 養育費 の責任 (社会)	9. 職業 (公務員)	10. 子育て 相談先 (保育園)		0.2915	100.0
共同学童保育所親 (生活リズム良好) 福祉の家庭責任 24/328	STEP1	1. ボラン ティア サークル (参加) 8人	2. 文化 サークル (参加)	3. 父母の 会 (入っていない)	4. 婦人会 (名前だけ)	5. 町内会 (参加)						0.0738	25.4	
	STEP2	1. 世帯類 型 (欠損)	2. 住居 (借家)	3. ボラン ティア サークル (参加)	4. 病気の 時世話を (時々)	5. 家庭文 化得点 (高い)	6. 学歴 (短大)	7. 介護の 責任 (家庭)	8. 学習に ボラン ティアを (いいえ)	9. 年令 (40才～)	10. 終る時 間に間 にあわ ない (はい)		0.2900	100.0
		11. 子供の しつけ (社会等)	12. 業務上 の精神 的理由 (みんなが 働くので)	3. 職業 (教員)	14. 運営に ついて (財政も運 営も親で)	15. 子供館 をふやし (いいえ)	16. しつけ に自信 がない (いいえ)	17. 婦人会 (参加)	18. 地域団 体(そ の他) (参加)	19. 父母の 会 (入っていない)	20. 文化 サークル (参加)			

3. 「家庭文化」「近所づきあい」等の全項目中心に

では、「家庭文化」「近所づきあい」「地域団体」をSTEP1として、その他をSTEP2として要因度を算出させた。そして「促進課題」中心にみると、保育園親調査では、「家具等の修理」(2位)「家族全員でおはよう」(7位)の家庭文化項目、「道での挨拶」(4位)「世間話」(6位)の「近所づきあい」の挨拶的項目、そして「地域団体参加」では「PTA」(5位)が出ている。

ところが、共同学童保育所親調査では、家庭文化項目で、「毎月の貯蓄」(1位)、「家族でTVの内容を」(6位)となり、「近所づきあい」項目は8位までには第1ステップ分では登場せず、地域団体参加項目では「ボランティア・サークル」(2位)「文化サークル」(5位)「婦人会」(8位)となっている。

全体的には「家庭文化」「近所づきあい」「地域団体参加」項目を説明変数とした時、一定の特徴があらわれた訳ではないが、そのライフステージごととの生活がよく理解出来る内容となっている。

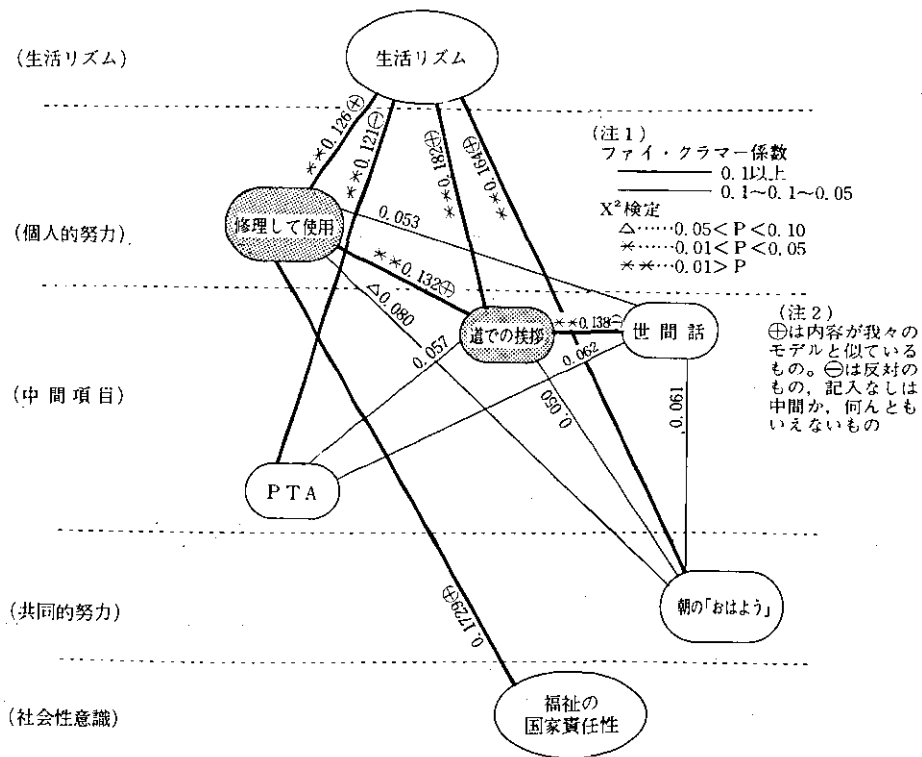
なお、「家庭文化」「近所づきあい」項目を「個人努力項目から社会的努力へ」の関係構造をみるために、各調査のSTEP1に登場して来た促進項目を中心に、クramer係数等をつかいモデル化した。その結果は図2-3-3のように保育園親調査では「生活リズム」から「家具を修理して使用」を通して、又は「道での挨拶」を通して、「福祉の国家責任性」の社会性意識への回路となっている。

このことは、家庭内での「共同的努力」項目が「福祉の国家責任性」につながる関連構造の内容とはなっておらず、その間に何らかの媒介項目があるものと思われ、今後の課題である。

表 3-3-1 「家庭文化」「近所づきあい」「地域団体参加」中心に

		(1)「家庭文化」「近所づきあい」「地域団体参加」項目中心に										相関比	%
		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位		
保育園調査 (生活リズム良好 福祉の国家責任) 337/630	STEP1	1. 一緒に 買い物 (していない)	2. 家具等 の修理 (はい)	3. 掃除は 毎日 (時々)	4. 道での 挨拶 (よくしている)	5. PTA (出る)	6. 世間話 (よくしている)	7. 家族全 員で 「おはよう」 (はい)	8. 不幸時 手伝 (時々)	9. ボラン ティア サークル (名前だけ)		0.1223	38.4
	STEP2	1. TVの 見る時 間 (1時間)	2. 朝の食 飲 (ある)	3. あなたの 保育料は高 いか (高い)	4. 介護の 責任 (行政)	5. 保育料 は公費 で (無、はい)	6. 世間話 よくしている)	7. 一緒に 買い物 (時々)	8. 職業 (自営)	9. 養育費 の責任 (社会)	10. 仕事を つづけ る経済 的理由 (豊かに)	0.3181	100.0
共同児童保育所 (生活リズム良好 福祉の国家 責任性) 24/328	STEP1	1. 毎月の 貯蓄 (いつも)	2. ボラン ティア サークル (なるべく出る)	3. 夫は家 事手伝 を (いいえ)	4. 道での 挨拶 (殆どしない)	5. 文化 サークル (なるべく出る)	6. 家族で TVの 内容を (よく話す)	7. 家具等 の修理 を (時々)	8. 婦人会 (なるべく出る)			0.1919	52.9
	STEP2	1. 毎月の 貯蓄 (いつも)	2. 住宅 (借家)	3. 婦人会 (なるべく 出る)	4. 学歴 (中学校)	5. 年令 (40才～)	6. 学習に ボラン ティアを (いいえ)	7. 朝食は 家族全 員で (時々)	8. おす わけ (よくしている)	9. 運営に ついて (財政も運 営も視)	10. 病気時 に世話 を (時々)	0.3625	100.0
		11. 勤労上 の精神 的理由 (みんなが 働いている から)	12. ボラン ティア サークル (なるべく出る)	13. 世帯類 型 (欠損)	14. 家具等 の修理 を (時々)	15. 福祉は 公私共 同 (わからない)	16. 道であ いさつ (殆どしない)	17. 介護の 責任 (家庭)	18. 終る時 間にま にあ ない (はい)	19. その他 の地域 団体 (入っていない)	20. 子供館 をふや し (いいえ)		

図 3-3-3 保育園親調査での「個的努力から社会性」への関連構造図



自己努力から社会改善努力へ

IV. おわりに

1. 自己努力的「革新支持」者への得点化による分析

最後に、全体的構造をみるために、多くの項目を得点化して、その相関マトリックスを作成した。

夜間学生調査だけには「疲労度得点」「食事得点」「家庭管理得点」「近所づきあい得点」以外に、「労働観得点」^(注1)「社会否定得点」^(注2)がつくれたので特に分析したい。そこで、これらの相関マトリックスからは「家庭管理得点」は「近所づきあい得点」と相関し、「社会否定得点」は「食事得点」とは逆相関するが、「労働観得点」とは正相関している内容となっている。

表4-2 夜間学生(H大Ⅱ部, H専門学校)調査の相関マトリックス

	疲労度得点	食事得点	家庭管理得点	近所づきあい得点	労働観得点	社会否定得点
疲労度得点						
食事得点	0.1061					
家庭管理得点	0.1826*	0.1078				
近所づきあい得点	-0.0291	-0.0451	0.2171*			
労働観得点	0.0757	0.0282	-0.0366	-0.0879		
社会不否得点	-0.0704	-0.3012**	-0.0541	-0.0094	0.2945*	

表4-3 夜間学生「自己努力的革新志向」者への判別分析

	判別係数
疲労度得点	
家庭管理得点	0.5256
近所づきあい得点	-0.5144
労働観得点	0.8592
社会否定得点	

(注) SPSSのDISCRIMINANTプログラム(METHOD=WILKS)によって算出した。判別分析の数字は標準正判別関数係数である。

次に、自己努力的「革新志向者」への判別係数によれば、第1に「労働観得点」であり、次に「家庭管理得点」となり、逆に「近所づきあい

得点」はマイナスとなっていた。このことは、自己努力的革新志向者は第1位が「労働観項目」にあることをしめしている。

(注1) 労働の意味(自己開発・生きがい)、賃金のパイ拡大論(まちがっている)、労使関係(団結して対抗)、ストライキ観(原則として自由)、今後の社会(変わってほしい)、支持政党(革新系)、人生の目標(仕事に精通・社会変革)、生活困難時の行動(組織的活動)、生活の暮し方(社会のため、自分の力の限界をためす)、貧困の原因(社会・政治)の10項目の()内の内容に答えたものを1点として合計して得点化したもの。

(注2) 「公害や物価高で国民生活が脅かされている社会」「多くの国民の声が反映されていない社会」、「国民権利が制限され、いろいろな差別の残っている社会」、「軍国主義化の危険がある」、「自分の各欲望や利益しか考えない人がふえている」、「人間が大切にされていない」、「一部の人が政治・経済・文化の思恵・利益をうけている」に「はい」と答えたものを1点として点数化したもの。

2. 「労働観等」項目も含めての分析

夜間学生(H大2部・H保専学生)調査の自己努力的「革新政権支持者(食事得点良好で革新政権支持)」への要因度を林数量化理論II類によって算出させた。

第1に、「労働観等」項目中心の分析では、STEP1に「労働観等」項目のみを入れて算出させたところ、1位が「労働の意味」で「社会参加・生きがい」に高く、2位が「生活困難時行動」で「役所に行く」に高く、「組織化」はその次であった。3位が「人生の目的」で「社会中心項目」に高く、4位が「ストライキ観」で「原則として自由」に高く、5位が「貧困の最大原因」で「社会的原因」に高いウエイト数量となっていた^(註1)

第2に、「家庭管理」項目・「近所づきあい」項目・「労働観等」項目をSTEP1として、所要因度を算出させたところ、促進項目を中心にみるならば、1位が「労働の意味」、2位が「生活困難時行動」であった。つづいて家庭管理項目となり、4位の「掃除」で「毎日する等」に高く、5位の「テレビの見方」では「見ない・時間ぎめ」に高く、9位の「家計

表4-2-1 夜間学生調査の「労働」観等項目中心の「食事良好・革新政権支持」者への要因度分析

	1. 「労働」観等項目中心に										相関比	%
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位		
STEP1	1. 労働の意味 (社会参加いさかい)	2位生活困難時行動 (役所に行く)	3位人生の目標 (社会中心)	4. ストライキ観 (原則として自由)	5. 貧困の最大原因 (社会的要因)	6位	7位	8位	9位	10位	0.2248	36.1
STEP2	1. 職業(無職・工員)	2. 家庭管理得点 (高い)	3. 労働の意味 (社会参加)	4. 生活困難時の行動 (運動化)	5. 性別 (女)	6. 労使関係 (団結して対抗)	7. 新聞をよる時間 (30分～)	8. 住宅 (借家)	9. 売春等 (今のまゝ)	10. 結婚目的の一生 きがい (記入なし)	0.6210	100.0
	11. 近所つきあい 得点 (低い)	12. ストライキ観 (原則として自由)	13. 起床時間 (きまつている)	14. 核戦争 (記入あり)	15. 結婚目的-社会的認知 (記入あり)	6. 行政改革 (記入あり)	17. 女性の就職 (家畜に)	18. 結婚目的-精神的 的定 定 (記入あり)	19. 疲勞度 (良好)	20. 新聞をよむ面 (社会面)		
2. 「家庭管理」「近所つきあい」「労働」等項目中心に											相関比	%
STEP1	1位労働の意味 (社会参加いさかい)	2位世間話 (時々)	3位生活困難時の行動 (社会運動化)	4. 掃除 (毎日等)	5. テレビ見ない時間 間ぎめ)	6. 一緒に買物 (時々)	7位今後の社会 (不満なし)	8位労使関係 (使用者のいうとおり)	9位家計簿 (つけている)	10. おすそわけ (ありません)		
STEP2	1. 不幸時の手 法 (よくしている)	2. 一緒に買物 (よくしている)	3. 政党支持理由 (まわりの人から)	4. 世間話 (時々)	5. 子供の行 きさき (しない)	6. 職業 (無職)	7. 起床時間 (きまつてい る)	8. 衣類の購 入 (流行)	9. 新聞をよむ 時間 (15～30分)	10. ストライキ観 (法的に制限)	0.7742	100.0
	11. 住宅 (借家)	12. 行政改革 (記入なし)	13. 売春等 (DK)	14. 調理品 (利用して いない)	15. 今後の社会 (このまま)	16. 結婚条件-経 済力 (記入あり)	17. 結婚の条件-愛 情 (記入あり)	18. 行政改革の意 図 (豊かに)	19. 掃除 (その都度)	20. 公務員給 付 (記入あり)		

自己努力から社会改善努力へ

簿」では「つけている」に高くなっていた。

以上の分析は、多くの示唆が与えられつつも、家庭生活の「共同性志向」が「社会性志向」につながる研究はまだまだである^(注2)が、「労働観」項目の社会志向と「家庭管理」項目の自己努力志向が重要な要因となっていることは十分に考えられる。

(注1) STEP2の中で3位の「党支持理由」(まわりの人から)、13位「売券等」(DK)、18位「行政改革の意図」(豊かに)は私のモデルからは考えさせられる内容であり、我々の反省項目である。

(注2) 久富善之「現代教育の社会過程分析」(1985年、労働旬報社刊)、高橋紘一著「現代都市の福祉行政財政—福祉ミニマム水準と財源保障—」時潮社刊 1985年

(1985.10.21)